

おわりに

年に何度か出張等で電車に乗る機会がある。電車内の様子が数年前と明らかに違うことに気づく。高校生の登校時間や下校時間の電車内は、以前明るい話し声や笑い声がよく聞こえ、時にうるさく感じることも多くあった。しかし、最近の電車内は、多くの高校生が乗車しているにもかかわらず静かである。その理由はほとんどの高校生がスマートフォンとにらめっこ。すぐ隣に友達らしき人がいても、互いに会話をするのでもなく、それぞれがスマートフォンとの対話？に夢中である。その内容は定かではないがおそらくゲームやライン、友人とのメールであろう。

携帯電話やインターネットの接続ができるスマートフォンは非常に便利なものである。しかし、その陰に潜む危険性も理解しつつ利用しないと様々な問題の発生が危惧される。その一つに「ネット依存症」がある。パソコンやスマートフォンから毎日長時間にわたってインターネット利用をしていると、ネットなしでは生きられない状態に陥るといふ。症状が重くなると幻覚や幻聴も出てくると聞く。麻薬依存症やアルコール依存症とよく似た症状である。さらに禁断症状もあり、インターネット接続ができない状況になると、暴れたり、大声を出したりなど他に危害を加えることもあるという。今後こうした若者の出現が心配である。

もう一つ「ネットいじめ」という言葉が出はじめて久しいが、インターネットのラインなどを使って友達を誹謗中傷するトラブルが本市でも多く発生している。顔も見えずなりすましもできることから、無責任な書き込みをしてしまう例もある。

「ネット依存」や「ネットいじめ」問題の発生を防ぐには、利用時間を制限することや利用時の約束事を保護者とともに決めるなど保護者の監督に期待するところが大きい。また、利用のモラルや違法性について理解をさせ、一人一人の自律心を高める指導が大切である。

本年度青少年センターでは、市内の小中学生を対象に携帯・インターネットに関する子どもたちの利用実態調査をおこない、その結果を各小中学校に配布し、指導に生かしていただいている。(調査結果は、本誌巻末に記載) また、青少年センターでは各学校に出向き、保護者や児童生徒を対象に携帯電話やスマートフォン、インターネット利用についての啓発活動や指導を進めている。こうした地道な活動が、青少年のインターネットの正しい活用法への理解を深め、利用上の弊害ができる限り少なくなることを期待している。

最後に、本年度も各地域で青少年の健全育成に向けて、ふれあい活動や補導をはじめ様々な活動を展開していただいた多くの関係者の皆さまに感謝申し上げます。

＜表紙のマーク＞

平成 22 年度一般公募により決定した蒲郡市青少年健全育成地域活動のシンボルマークです。

水色は蒲郡の美しい海、オレンジは若さ明るさをイメージし、「地域の人々の手で明るく青少年を守ろう」のコンセプトで作成されています。

発行日 平成 26 年 2 月 1 日

発行 蒲郡市教育委員会

編集・印刷 蒲郡市青少年センター

〒443-8601 愛知県蒲郡市旭町 17-1

電話 0533-66-1168

製 本 親和原田プリント(株)